

令和7年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	壮志会	
事 業 名	先進地視察 南箕輪村 ・「運動あそびと人口増」について	
事 業 区 分	① <input type="checkbox"/> 研究研修	<input checked="" type="checkbox"/> ② 調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市においては、少子化・人口減少の信仰に加え、子どもの体力低下や運動習慣の二極化、子育て世代の定住・転入促進が大きな課題となっている。特に、子育て環境の充実が人口政策に直結する中、教育・福祉・健康施策を横断した取り組みが求められている。

本視察は、人口増を実現している南箕輪村の施策の中でも幼少期からの「運動あそび」を核とした取り組みに着目し、その実態と成果を調査・研修することで、上田市の今後の政策立案に資することを目的とする。

2 実施概要

実 施 日 時	視察先	南箕輪村
令和 8 年 1 月 16 日(金) 15:00 ~ 16:30	担当部局	地域づくり推進課 課長 高橋 里江 こども課 課長 武井 香織

報 告 内 容	1 南箕輪村の概要
	南箕輪村は、長野県上伊那郡に位置し、人口1万6千人を有する県内でも最大規模の村である。伊那谷の中央部に位置し、交通利便性と自然環境のバランスに優れ、工業団地の整備や雇用創出にも積極的に取り組んできた。近年は、子育て・環境施策の充実を背景に、人口増化傾向にある全国的にも注目される自治体である。村誕生、明治8年2月より、合併や分離をせずに、令和7年2月に村政150周年を迎えている。
報 告 内 容	2 南箕輪村の特徴
	南箕輪村の最大の特徴は、明確な人口増戦略を持ち、教育・子育て施策を村づくりの中核に据えている点である。保育園・小学校・中学校が連携し、子どもの成長段階に応じた切れ目のない支援体制を構築している。また、運動あそびを通じた体力向上や、非認知能力の育成を重視し、専門人材の配置や継続的なプログラム運営を行っている点も特徴的である。これらの取り組みは、子育て世代からの高い評価につながり、結果として転入増・定住促進に結びついている。

3 視察事項

今回の視察では、南箕輪村が実施している「運動あそび」を中心とした子ども育成事業と、それが人口増にどのように寄与しているかについて調査を行った。特に、幼児期から小学校低学年までを対象とした運動あそびプログラムの内容、実施体制、専門指導者の関与状況について説明を受けた。

南箕輪村では、運動あそびを単なる体力づくりと捉えるのではなく、自己肯定感や、挑戦意欲、協調性といった非認知能力の育成につながる重要な教育施策として位置付けている。保育現場と教育委員会が連携し、日常の保育・授業の中に無理なく組み込まれている点が特徴である。

また、こうした施策を村全体で共有し、保護者への情報発信や理解促進にも力を入れていることが確認できた。運動あそびの充実が、子どもの健やかな成長だけでなく、保護者の安心感や村への信頼につながり、結果として人口増という成果を生み出している点が印象的であった。

4 課題と今後の方向性

南箕輪村の取り組みは多くの成果を上げている一方で、持続可能という観点では、課題も存在する。運動あそびを支える専門人材の確保や育成、財源の安定確保は、今後も継続的に取り組む必要がある課題である。また、人口増加に伴う保育・教育施設の受け入れ体制や、教職員・保育士の負担増への対応も重要な論点である。

一方で、村として、明確な方向性を示し、教育と人口政策を結び付けている点は高く評価できる。運動あそびを「特別な事業」にせず、日常の教育活動に組み込んでいくことが長期的な成果につながっていると考えられる。

今後は、運動あそびの効果を数値やデータとして可視化し、さらなる改善につなげていくことが求められる。

また、子ども施策だけでなく、親世代への支援や地域全体で子育てを支える仕組みを強化することで、より安定した人口増につながるものと考えられる。

報
告
内
容

5 視察（上田市への提案）

本視察を通じ、南箕輪村が実施している「運動あそび」を中心とした施策は、子どもの健やかな成長を見据えた戦略的なまちづくりの一環として位置付けられている点だが、上田市にとって大いに参考となるものであった。上田市においても、少子化や人口減少が進行する中で、子育て環境の充実を軸とした人口対策の再構築が求められている。

上田市は市域が広く、旧市町村ごとに地域特性や教育・保育環境に違いがあるため、南箕輪村の取り組みを一律に導入するのではなく、段階的かつモデル的な展開が現実的である。まずは、保育園や小学校を中心としたモデル地区を設定し、運動あそびを日常の保育・教育活動の中に体系的に取り入れる実証的な取り組みを行うことが有効である。

運動あそびの推進にあたっては、教育委員会の施策にとどめず、市長部局との連携を図り、全庁的な体制で取り組むことが重要である。子どもの体力向上や医療費抑制さらには、地域を支える人材育成にもつながるものであり、健康政策、福祉政策、人口政策と密に関連している。部局横断的な検討体制を整え、共通認識の下で施策を推進すべきである。

また、運動あそびを継続的かつ効果的に実施するためには、専門的知見を有する人材の確保と育成が不可欠である。教職員や保育士の過度な負担とならないよう、外部人材の活用や研修体制の充実を図り、現場が安心して取り組める環境を整える必要がある。併せて、職員が運動あそびの意義や効果を理解し、主体的に実践できるよう支援することが求められる。

さらに、こうした取り組みを持続可能なものとするためには、保護者や地域住民の理解と共感が不可欠である。南箕輪村では、子どもの成長の様子や施策の目的を丁寧に伝えることで、保護者の安心感と信頼を高めていた。上田市においても運動あそびの効果や成果を分かりやすく発信し、「子育てしやすいまち・上田」というメッセージを内外に示すことが重要である。

加えて、運動あそびを子ども施策にとどめるのではなく、移住・定住施策と連動させた人口政策の一環として位置付ける視点が必要である。子育て世代が、自治体を選択する際、教育環境や子どもの成長を支える仕組みは重要な判断材料となる。上田市の特色ある取り組みとして戦略的に発信することで、定住促進や、転入増加につながることを期待される。

今後は、運動あそびの効果を客観的に検証するため、体力測定結果や学校生活への影響、保護者アンケート等のデータを継続的に蓄積・分析し、施策改善に活かしていくことが重要である。南箕輪村の事例に学び、上田市においても運動あそびを起点とした子ども施策を総合的に展開することで、子どもの健やかな成長と人口減少対策を両立させる持続可能なまちづくりを進めることを強く提案する。

感想（まとめ）・市政に活かせること

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

感想(まとめ)・市政に活かせること



* 視察先の写真等がある場合は添付のこと